

別記様式（第5条関係）

会 議 録

会議の名称	令和4年度第2回国指定史跡「津屋崎古墳群」整備指導委員会	
開催日時	令和5年 3月 1日（水） 午前 午後 1時30分から 午前 午後 5時00分まで	
開催場所	福津市庁舎 本館 庁議室 ， 新原・奴山古墳群	
委員名	出席委員 西谷 正、伊東 啓太郎、安福 規之、辻田 淳一郎	
所管課職員職氏名	文化財課長 来仙 義久、世界遺産係長 池ノ上 宏、史跡整備係長 井浦 一、永島 聡士	
会 議	議題（内容）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 前回委員会以降の経過 ・ 令和4年度の事業，新原・奴山古墳群現地視察
	公開・非公開の別	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 非公開 <input type="checkbox"/> 一部公開
	非公開の理由	—
	傍聴者の数	0 名
	資料の名称	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第（A4, 1枚） ・ 前回委員会議事録（A4, 3枚） ・ 前回委員会以降の経過（A4, 1枚） ・ 整備事業について（A4, 2枚） ・ 調査資料（A4, 8枚） ・ 公有化事業について（A4, 2枚） ・ 令和5年度調査について（A4, 3枚） ・ 令和5年度整備事業について（A4, 1枚） ・ 当日配布資料 物理探査提案書（A4, 1枚）行動計画（A3, 1枚）
議録の作成方針	<input type="checkbox"/> 録音テープを使用した全文記録	
	<input checked="" type="checkbox"/> 録音テープを使用した要点記録	
	<input type="checkbox"/> 要点記録	
	記録内容の確認方法 各委員による確認	
その他の必要事項	※出席者 福岡県文化財保護課 下原 幸裕，九州歴史資料館 宮地 総一郎，福岡県九州国立博物館・世界遺産室 岡寺 未幾，宗像市世界遺産課 白木 英敏	

審 議 内 容

(発言者、発言内容、審議経過、結論等)

1. 教育長あいさつ

2. 委員長あいさつ

3. 運営・確認事項

1) 前回委員会以降の経過

【事務局説明】(永島)

・資料1及び2を基に説明。

・質疑なし。

※庁舎から新原・奴山古墳群に移動

4. 現地視察(34号墳→29号墳付近→19号墳→民間事業施設跡地→JAカントリーエレベーター跡地)

<34号墳整備工事>

【事務局説明】

・急斜面に粘性土で盛土を行った。人力作業で土を積む手法で工事した。現在は盛土が終了したところで、今後は芝を張り完成する。現状の墳丘と調和する形状とした。復元ではない。工事ヤードは仮設盛土を施し、遺跡に影響がないように実施した。(井浦)

<34号墳調査>

【事務局説明】

陥没・盗掘坑の視察

【質疑応答】

・質疑なし

<未確認古墳⑥⑦>

【事務局説明】

・表土除去途中である。明確な遺構等は未検出。石材が出土している。(永島)

【質疑応答】

・質疑なし。

<19号墳>

【事務局説明】

・前回委員会において西谷委員長のご指導があり、追加調査を行った。

・15号墳19号墳間トレンチの土層観察と、19号墳墳頂の陥没と集石について調査を行った。19号墳墳頂陥没の調査の結果、竪穴式小型石室を検出した。15号墳石室を第一主体部とした場合、19号墳石室を第二主体部と考えている。石室掘方及び裏込土が確認できないことから、墳丘と同時に石室を構築したことが考えられる。19号墳周辺は後世に大規模な改変が加えられており、土層にも後世の攪乱土が確認される。19号墳石室出土刀子の年代は、古墳時代中期以降であり、15号墳の年代と矛盾しない。(永島)

【質疑応答】

質疑なし。

<民間事業施設跡地、JAカントリーエレベーター跡地>

【事務局説明】

・地形復旧のための盛土工事を行っている。令和5年度にかけて継続して行う。カントリーエレベーターはすでに撤去が完了している。これは公有化事業に関するものである。(井浦)

[庁舎に戻り審議に移る]

【質疑応答】

1) 34号墳について

・34号墳石室の来年度以降の調査の方針はどうか。また、将来的に石室公開の予定はあるか。(辻田委員)

・今年度調査で規模・形状の確認調査と石室の状況確認を行った。来年度に石室内部への流入土砂の除去と石室構造記録等の調査を予定している。また、石室の三次元計測を行い、そのデータをもとに石室修理等の計画を検討し、将来的に石室の公開を目指している。(永島)

・現地説明会の予定はあるか。(西谷委員長)

・3月26日に予定している。(永島)

2) 未確認古墳について

・調査はいつまでの予定か。(西谷委員長)

・7基の未確認古墳について、令和4～5年度の2か年で調査予定。3月末まで調査し、来年度も継続して行う。(永島)

3) 19号墳について

・資料4を基に説明(永島)

・県文化財保護課並びに世界遺産室の意見を聞きたい。(西谷委員長)

・前方後円墳かどうかに関して、15号墳19号墳間トレンチの土層断面の観察で、両墳丘にまたがる土層が確認されたため、両古墳が一連の墳丘をもつと認識できると判断した。(宮地)

・後円部区画溝が土層断面に確認されている。同様のものが以前調査した新原・奴山30号墳でも見つかっており、共通性が古墳群内で認められる。2つだと思われていた古墳が一つの古墳だったという傍証になるのではと思う。(下原)

・辻田委員にも意見を聞きたい。(西谷委員長)

・前方後円墳の可能性が高いという認識でいいのではないかと思う。小型石室で見えていた最下層は床面でよいのか。(辻田委員)

・床面だと認識している。(永島)

・出土したガラス玉は何点か。(辻田委員)

・1点。15号墳の調査で出土した。(永島)

・福津市としては前方後円墳と断定的に考えているようだが、福津市の責任において現地説明会等で話しても構わないし、報告書でそのように記述してもよい。但し、私は意見が違い、19号墳は円墳であると考えている。これは個人の見解である。断面観察で見られた新しい盛土というのはいつの時代のものか。(西谷委員長)

・遺物の出土がないため、年代の推定が難しい。令和2年度調査で検出された近現代とみられる溝状遺構から、19号墳石室に使われたとみられる石材が出土しているので、その時期に盛りかけたものだろうと考えている。(永島)

・19号墳は整った円形墳だという印象がある。43号墳や未確認古墳のように墳形すらわからないものが近現代の改変を受けた姿と思う。今年度の調査で15号墳との関係が墳丘断面の観察で明確になった。同時的に墳丘を構築していることがわかったが、それは2つの古墳の密接な関係を示すものである。非常に近い関係にあったと解釈できる。南西部の周溝角部は大きな問題である。これは上端ではないので掘削時に偶然スコップが深く入り、角状になったと考えられなくはない。また、前方後円墳とする場合の長軸上に前方後円墳の痕跡もない。周溝角部の痕跡のみで前方部を推測するのは行き過ぎていると感じる。また、同地域の他の前方後円墳との比較資料があ

るが、15号墳19号墳の平面図を見て、古墳の形態が4～5世紀のものに見える。前方部幅が狭く、高さが低い。出土した埴輪や須恵器から6世紀前半～中頃とあるが、この時期であればこの形態にはならない。以上のような疑問を持っている。想定される復元形態、15号墳19号墳の高さの差の大きさ等を総合的に見た場合、2つの円墳で、深い関係を持つ被葬者ではないかと考える。一目見ると、大きな15号墳の横に小さな19号墳がある。15号墳19号墳の周溝が連結しているのは円墳2基で有り得ることで、2つの古墳が周溝を共有するという例はある。京都宇治二子山古墳は、2つの古墳が並んでおり、周溝を共有している。個人的には「前方後円墳の可能性がある」ということであれば認めるが、断定的に言うことには反対である。(西谷委員長)

- ・先の説明だと両古墳を繋ぐ土層が見つかったとのことだが、19号墳の土層内への接続がはっきりしていないので調査が必要ではないか。委員長と意見が相違しているのは望ましくない。(安福委員)

- ・両古墳を繋ぐ共通の土層は、19号墳の墳丘盛土の上層に来ているという点を重視している。(永島)

- ・同じ土を用いて前方後円墳が造られているのであれば、19号墳に同じ土が確認できないか。(安福委員)
- ・現在のトレンチ範囲では確認できないが、その他の地点で確認できる可能性がある。盛土は同じような土を周囲から集めて施す関係上、色が変化していくものであり、現状で積土の単位を区別する目安として線引きをしている。(井浦)

- ・前回委員会でも提起したが、様々な切り口で検討して判断することが必要だと感じる。土質、地形、年代等科学的な分析も判断材料にしてもいいと考える。(安福委員)

4) 整備について

- ・古墳の公開に関して、いかに一般向けに魅力を伝えられるかを考えたが、回遊路のマップの充実、ルート分け等個々の興味に合わせたハード・ソフト両面の整備を同時に進めていくべき。菜の花に関して、集客はいいかも知れないが、在来植物による本来の風景の復元について考えるべき。前回課題になっていた葛の対処はどうなったか。(伊東副委員長)

- ・特別な対策はしていないが、今は気候的に繁茂が抑えられている。地下茎は未だあるのでまた繁茂する可能性がある。具体的な対策に向けて情報収集中である。(井浦)

- ・葛を放置すると大変なので時期を見て対策を。また、カントリーエレベーター側の見学ルートの設定も視野に。(伊東副委員長)

- ・世界遺産に関わってきて、カントリーエレベーターや民間事業施設がなくなったことは大変喜ばしく思う。市民も世界遺産登録後、一番変化した状況を見ることができ今後ますます注目されていくことだろう。整備指導委員会は史跡の保存活用について審議してきたが、福津市として今後10年、20年後の新原・奴山古墳群がどのような姿を目指すのか、世界に対して伝える必要がある。また一方で、市民ワークショップで出た意見のように、市民が親しみやすい場の創出にランドスケープの視点は欠かせないものだろう。市役所の様々な部署が連携して今後の活用を考えていく段階になったと考えている。(岡寺)

- ・カントリーエレベーター撤去の際、5号墳6号墳の痕跡等は確認されたか。(辻田)

- ・建物撤去では立会を行った。その他の地点は表層のアスファルトを剥いだ段階で止めており、その下に砂利がある状態。遺構が残存する深さまで到達しないので遺構は確認できていない。5号墳6号墳は、現地表と調査時の深さを比べると1～1.5mの深さに遺構が残存している可能性がある。今後、仮整備として広場整備をした後に、本整備に向けた確認調査を計画している。撤去中に小ぶりの玄武岩石材が5～6点発

見されたので、現地に保管している。(井浦)

5) 令和5年度事業について

【事務局説明】

- ・(資料6で説明)

【質疑応答】

・カントリーエレベーター跡地の整備後、国道をどのように横断してアクセスするのか。(伊東副委員長)

・仮整備前に、警察、公安、県土整備事務所等と協議の上、交通安全施設を設置したいと考えている。(井浦)

・現時点でカントリーエレベーター側は、世界遺産として非公開エリアとしている。(池ノ上)

6. その他

・委員会で結論が出ない問題について、諸説ある古墳としておくということは考えられないか。(安福委員)

・今回の資料では断定的に記述しないように文章を整えたつもりだった。未解明の部分がある以上、可能性の記述に留めている。考古学的遺跡であり、失われた部分も多くあるため推定含みである。物証を調査で積み上げ、他遺跡との比較で補完している。また、今回の資料は福岡県文化財保護課、世界遺産室との現地協議資料を精査して作成している。西谷委員長が発言されたように、断定することができない状況なので、「前方後円墳の可能性はある」とまとめている。(井浦)

・科学的な知見を可視化して論説をわかるように記述すれば、議論の基礎資料になるように思う。(安福委員)

・15号墳19号墳は、調査が進んでいる状況で辻田委員に実見してもらって意見を聞くのはどうか。15号墳19号墳は史跡である関係上、限られたトレンチで調査をしなければならない制約がある。今回の経緯を踏まえ、今後の調査では効率よく墳丘形状を明らかにする調査方法等を市と県で協力して検討していきたい。(岡寺)

・34号墳の物理探査について詳細な説明を。(辻田委員)

・安福委員のご指導の下、探査を行える業者もご教示いただいた。その業者から調査プランの提出があった。(井浦)

・経費はどの程度か。(辻田)

・約1,000万円である。(井浦)

・34号墳で将来的に石室を公開するのであれば必要な調査になってくる。あわせて、九州大学の牛島先生や水永先生が石室の電気探査を行っている。34号墳を含め、石室の位置等わかっていないものがあるのでそうした探査が可能か。(辻田)

・今回は整備事業の修理工事に必要な探査を想定している。九州大学による考古学的な地下遺構の探査については古賀市で実施されており、別途検討していきたい。(井浦)

・次回委員会の開催時期は、令和5年度事業の進捗に合わせて検討し、開催日の2か月程度前にスケジュールを調整したい。

— 終了 —